



図 10-17 前額の病変をダーモスコピーで視診する
 図 10-18 顔面と耳を視診する
 図 10-19 前額部の病変をダーモスコピーで視診する

つぎに、患者に前傾姿勢になってもらい、了承を得てからガウンを開けて上背部を視診する(図 10-20)。

つぎに、肩、腕、手を視診する(図 10-21)。手の爪を色、形、病変に注意して視診、触診する(図 10-22)。爪甲の縦方向の色素線条は、皮膚の色が濃い人では正常である。



図 10-21 上肢の病変をダーモスコピーで視診する



図 10-22 拡大鏡による手の視診と爪の触診

つぎに、胸部と腹部を視診する(図 10-23, 10-24)。患者に「胸と胃のあたりを診察しましょう」と伝えて、準備をしてもらう。このように伝えると、患者は自分でガウンをずらしてこれらの部位を露出させ、診察が終わったらもとに戻してくれることが多い。この時点で腋窩を診察してもよいし、女性患者の場合は後の乳房の診察時にまとめて行ってもよい。



図 10-23 胸部の視診

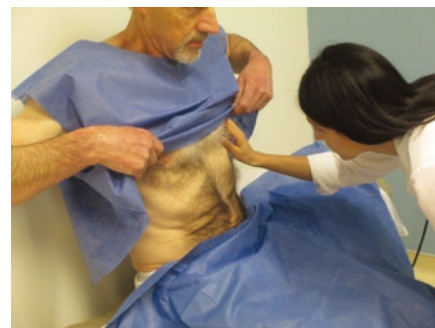


図 10-24 腹部の視診



図 10-20 前傾姿勢で上背部の病変を視診する

表 10-9 「爪とその周囲の所見」を参照。

つぎに、大腿と下腿の前面を診察することを患者に伝える(図 10-25)。患者と一緒に、これらの部位の皮膚を足・足趾まで露出する(図 10-26)。爪甲を視診および触診し、足底と趾間を視診する(図 10-27, 10-28)。



図 10-25 大腿前面の病変をダーモスコピーで視診する



図 10-26 下腿前面の視診



図 10-27 足底と踵の視診



図 10-28 趾間の視診

つぎに患者に立位になってもらい、腰背部および大腿と下腿の後面を視診する(図 10-29, 10-30)。必要に応じて、患者に殿部のガウンと下着をずらしてもらい(図 10-31)。乳房と生殖器の診察は最後にしてもよい。これらの部位の診察にあたっては、患者の快適さ、羞恥心に配慮することや、付添人の必要性を検討することが重要である(詳細は他章を参照)。腋窩と陰毛の視診も行う。



図 10-29 立位で腰背部を視診する



図 10-30 大腿後面の病変の大きさを定規で測定する



図 10-31 殿部の病変を視診する

第 18 章「乳房と腋窩」(p. ●~●), 第 20 章「男性生殖器」(p. ●~●), 第 21 章「女性生殖器」(p. ●~●)を参照。